

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
第5学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人

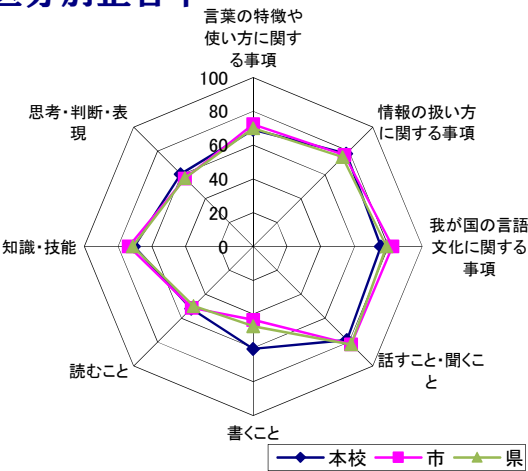
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.1	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	77.8	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	75.6	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	78.3	81.9	82.0
	書くこと	60.6	43.5	47.2
	読むこと	51.9	51.4	49.8
観点	知識・技能	70.5	73.6	71.3
	思考・判断・表現	60.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

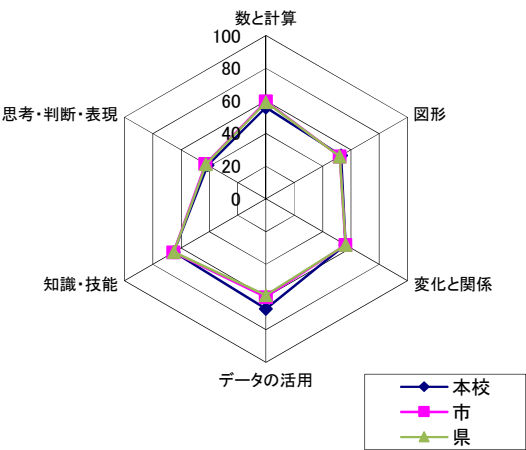
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より低かった。 ○4年生で学習した漢字の読みができています。 ●漢字の書きは、無回答率が市や県の平均より高く、課題がある。 ●連用修飾語の係り受けについての理解が十分でない。	・朝の学習の時間や宿題で、繰り返し漢字の練習に取り組ませる。 ・文章を書く中で、正しく漢字が使えるように指導していく。 ・修飾語には、連体修飾語(名詞を修飾する語)と連用修飾語(名詞以外の動詞や形容詞、形容動詞を修飾する語)の2種類があることについて指導し、係り受けを考える際の参考にできるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○漢字辞典の使い方について理解している。	・ICTだけではなく、辞書を使って調べる場を設定したり、生活の中で辞書を使って調べる習慣がつくように声を掛けたりしていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より低かった。 ●ことわざの意味や用法についての理解が十分でない。	・朝の学習の時間や宿題で、ことわざの意味や用法を学ぶ機会を設定する。 ・ことわざかるた(江戸いろはかるた等)で楽しみながら学べる機会をつくる。 ・ことわざの意味や用法調べの宿題を出し、発表する時間を作ることで、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均より低かった。 ○話し合いの場面で、それぞれの共通点や相違点を踏まえながら、意見をまとめることができています。 ●話の中心を捉えたり、話し手の工夫を感じ取ったりすることに課題がある。	・学習の中に話し合いの場面を多く設定するようにして、実践的に力を高められるようにする。 ・話し合いでは、共通点や相違点を考えながら聞くよう継続的に指導する。 ・自分の考えを理由を挙げながら説明する場を、話し合いや各教科の授業で設定する。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○内容の中心を明確にして、自分の考えを書くことについては正答率が高い。 ○字数などの条件に沿って、自分の考えを記述することができています。	・国語や総合的な学習の時間を中心に、インタビューして話をまとめる活動を多く設定する。 ・段落の役割について確認し、段落の構成を考えながら文章を書くことができるように指導する。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○説明文において、段落相互の関係に着目しながら正しく内容を読み取ったり、文章を要約したりすることができています。 ●物語文において、文章を読んで感じたことや考えたことを表現することに課題がある。	・教材文や本を読んで感想を書いて表現する場を設定する。また、共有することで、相手に自分の考えを伝えるには、どのように表現すればよいのか考えさせる。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.0	59.7	59.2
	図形	53.0	52.1	52.1
	変化と関係	56.1	56.1	56.3
	データの活用	67.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	65.2	65.5	65.1
	思考・判断・表現	41.3	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

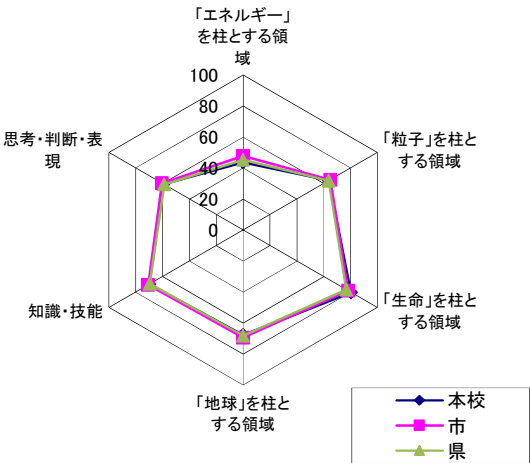
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均よりも低かった。 ○大きい数の読み方については、県や市の平均より高くよく理解している。 ●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り仮分数で表す問題は、正答率が40%と低く、理解を深める必要がある。 ●帯分数＝真分数＝真分数(繰り下がりあり)では、同分母分数に直しての計算の仕方については、課題がある。	・分数の仕組みについて調べる活動では、図や数直線の活用など資料を工夫して指導していく。 ・分数の計算では、帯分数を計算しやすいように処理するしかたについて、仮分数に直すだけでなく、整数部分から繰り下げて引き算できるようにする方法を使い分けられるように指導していく。
図形	平均正答率は、県や市の平均よりも高かった。 ○ひし形の作図の仕方は、県や市の平均より高く、よく理解している。 ●身近な物の面積と単位の関係について正しい単位を選べるように、理解を深める必要がある。 ●面積の単位を説明することについては課題がある。	・1辺の長さと面積を表に表すなど、面積の単位の関係の理解を深めさせる活動を行っていく。 ・それぞれの面積の単位を関係を図や表をもとにして考え関連付ける活動を行う。 ・身近なものを取り上げて、適した面積の単位を組み合わせていく活動を通して量感を養っていく。
変化と関係	平均正答率は、県や市の平均と同じくらいだった。 ○表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることは理解できている。 ○数量の関係について正しく表された図を選ぶ問題は、市の平均より高く、基準量を求める除法の文章問題を表す図を選ぶ力が付いている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について表を縦に見て分かることを説明する力に課題がある。	・伴って変わる数量の関係を学ぶ際は、表から変わり方のきまりを見つけさせる時間を十分に与える。また、一方の値が変化すると、もう一方の値がどのように変化するのか2つの数量関係を調べ説明する活動を今後も行っていく。 ・ある2つの場合の数量関係と別の2つの数量関係とを比べる場合には、その関係を図に表してから立式するように指導する。また表を縦に見ることで「変わらない数値」を見つけやすくなり、関係の式に表せることを、比例の関係と関連付けて指導する。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均よりも高かった。 ○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る力が付いている。 ○二次元表の読み方についてよく理解している。 ●「けん玉とあやとり」のどちらもしたことがない人の人数を求めるのに必要な二次元表の欄を使って、条件に合う人数を考えるような問題の正答率が低く、理解を深める必要がある。	・目的に応じてデータを集めることに重点を置いて指導する。また、データを分析して得られた結論を言葉で説明する活動を大切にする。 ・データを2つの観点で分類整理し、表にまとめたり、そこからわかることを考察する活動を丁寧に行っていく。 ・その際、条件に合うように○×の記号を二次元表の欄に書き込み、例えば「××」の状況を言葉で説明できるように指導する。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.7	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	64.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.4	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	67.8	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.9	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より低い。また、他の領域に比べて平均正答率が低い。 ○簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題では、正答率が33. 1%で、市の平均より約4ポイント高い。 ●並列つなぎの名称を答える問題では、正答率が44. 4%で、県や市の平均より約13ポイント低い。	・「電気のはたらき」では、普段あまり実感していない事象や用語が多いので、電池の数や回路(直列つなぎ・並列つなぎ)によって電流の流れる量が変わる等、実験を中心に基本を身に付けさせた上で、実験の後にプリントなどで演習問題に取り組みさせるなどして定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同程度であった。 ○金属の温まり方を答える問題では正答率が95. 6%で市の平均より約7ポイント高く、水の温まり方を答える問題では正答率が37. 8%で市の平均より約5ポイント高い。 ●水を冷やす実験の準備について答える問題では正答率が77. 8%、予想が正しかった場合に得られる実験結果を答える問題では正答率が46. 7%で、どちらも市の平均より約9ポイント低い。	・実験を行うときには実験の目的をよく理解させてから準備をさせたり取り組みせたりする。また、予想を立てるときには、予想が正しかった時に得られる実験結果まで考えさせ、見通しをもって実験に取り組ませる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○季節によるカエルやサクラの変化を答える問題では、正答率が91. 1%と80. 0%で、それぞれ市の平均より約7ポイントと約19ポイント高い。 ●腕を曲げた時の筋肉のようすを答える問題では、正答率が60. 0%で県や市の平均より約14ポイント低い。	・実物を観察できるものは正答率が高かったので、学校の環境を生かした観察はできるだけ実物に触れさせるようにしていく。筋肉の動きのように実物を観察できないものに関しては、動画や模型、PCなどできるだけ多くの方法を活用して理解を深めさせる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。 ○天気の流れ方をこたえる問題では、正答率が82. 2%で県や市の平均より約10ポイント高い。また、冷やしたペットボトルについて水滴が空気中の何が変わったものかを答える問題では、正答率が68. 9%で市の平均より約9ポイント高い。 ●星の色や明るさについて答える問題では、正答率が75. 6%、排水溝が作られているところがどうなっているかを答える問題では、正答率が26. 7%で、どちらも市の平均より約12ポイント低い。	・星の観察は授業中にはできないので、宿題等で実際に見る活動を行う。また、動画やPCのアプリなどで関心を高めるとともに理解を深めさせる。 ・まとめや振り返りでは、実験や観察から得られた結果を、身の回りのことなどにつなげて考えられるようにさせる。

宇都宮市立西原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は、県や市の値よりも高く、7割近くが自主的に苦手な教科の復習や予習をしていると思われる。また、家で勉強するときは、7割以上がだいたい同じ時刻に取り組むようにしており、自宅での学習習慣が定着していると考えられる。今後も、学校と家庭が連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるように努めていきたい。

○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどのくらいの時間、読書を読みますか」の肯定的回答の割合が、県や市の値よりも高く、読書が生活の中でしっかり位置づけられている様子が伺える。これからも読書への啓発を行い、より読書へ親しんでいけるようにしていきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定的回答の割合が9割以上で県や市の値よりも高い。授業の流れとしてのめあてから振り返り、思考の整理としてのノートの活用が定着していると思われる。今後も活用し、学習の流れを確立していきたい。

○「友達の前で自分の意見を発表することは得意である」の肯定的回答の割合は65%以上で県や市の割合よりも高かった。自分の考えや意見を出しやすいように少人数で話し合わせたり、発表しやすい活動を効果的に取り入れたり授業づくりを工夫している成果が表れていると考えられる。今後は、どの教科においても自分の意見や考えが言えるように、探求することの楽しさを感じられる授業づくりに努めていきたい。

●「勉強していておもしろい楽しいと思うことがある。」の肯定的割合は42%と半数に届かず、否定的回答の割合もそれぞれが県や市の割合より高くなっている。また、「勉強していて『ふしぎだな』『なぜだろう』と感ずることがある」の肯定的割合も同様に県や市の割合より低かった。学習の面白さや知的好奇心をもてない児童の姿が見られる。児童自身の興味関心から引き出して課題を設定したり課題解決の方法を工夫したりするなど、物事を知ること探求すること考えることの楽しさを児童に授業の中で伝えていきたい。

●「クラスは発言しやすいふん囲気である」の肯定的回答の割合は、県や市の値より低く、少人数では自分の考えを発表できるがクラス全体では躊躇してしまう児童の姿が予想される。間違えや自分の考えを否定されることを恐れず、安心して発言できるような雰囲気づくりに努め、またどの場面でも自分の考えを言えるように指導していきたい。

●学習について「内容がわかる」「好き」「将来のために大切だと思う」と答える児童の割合が高い一方で、「ふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的割合がどの教科でも低かった。学んだことを生かしたり、生活場面に結び付けて考えたりすることが苦手な様子が見える。授業の学びを他教科や生活に広げていくことと生活の中で見聞きしたことをヒントに授業中の思考を深めていくことなど、授業と生活場面を結び付けて「学びの実感」を児童にもたせるよう支援をしていきたい。

宇都宮市立西原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	・西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう、全教職員で共通理解を図っている。また、3～6年生は週に3回の朝の活動の時間をモジュール学習として確保し、指導計画表にも位置付けることで基礎基本の確実な定着を図る。	・4・5年生の国語・理科の基礎・活用は市の平均と同程度の正答率であった。学年が進むにつれ、学習内容も難しくなり、学力の定着も困難になってくるので、習熟度別の学習や日々の授業やモジュールなど朝の学習の時間の確保、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
・主体的・対話的で深い学びを実現し、児童が学びを実感できる授業の展開	・昨年度までの研究の成果を生かした授業展開や児童が学びの実感を得られるような一人一授業の実践、それに伴った授業研究会を行う。 ・児童自身が課題を自分事にし、主体的に取り組むことができるようなめあてや問いのめあて、児童が進んで学び続けたいくなるような振り返りの仕方など、授業の展開を工夫する。	・「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合が、県や市や値よりも高くなっていた。昨年度までの「学び続ける児童の育成」を研究してきた成果であると言える。学習について、「ふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的割合がどの教科でも低かったことが気になる。授業の学びを他教科や生活に広げていったり、生活の中で得た知識を授業の中で生かしたり、授業と生活場面を結び付けて「学びの実感」を児童にもたせるよう支援をしていきたい。